

4月16日(木曜日)「サウル王の最期」

【新改訳 2017】

Ⅰ サムエル記31・2－13

「ペリシテ人はサウルとその息子たちに追い迫って、サウルの息子ヨナタン、アビナダブ……を打ち殺した。攻撃はサウルに集中し……ひどい傷を負った。……サウルは剣を取り、その上にうつぶせに倒れた。」(2-4節)

ついに、悲劇の王サウルの最期が来ました。ペリシテ軍に敗れたのです。この最後の章もまことにあわれな思いにされますが、この少し前(28・4-25)に、サウルは主に伺ったが、主は夢でも、ウリムでも、預言者によっても答えてくださらなかったとあることに心が痛みます。主の御霊が離れてしまっていたのです。

そこでサウルは、自ら禁じていた霊媒の女の所に行ってサムエルを呼び出してもらおうと、変装して行きますが、見破られます。もはや、一国の王などといえる姿ではありませんでした。とうとうペリシテ軍に敗れ、息子も戦死し、自分自身も深い傷のため自害して最期となりました。主の御霊とみこころに反して祝福の生涯はなかったのです。

～祈り～

主よ。サウル王の最期は、あまりにも非惨に思われます。この史実から何を学んだらよいのでしょうか。どうか、ねたみや高慢の罪から、またあなたへの不信の罪から守ってください。

**【学びのために】**

エゼキエル33・1－20をぜひ読んでください。「正しい人の正しさも、彼がそむきの罪を犯したら、それは彼を救うことはできない。悪者の悪も、彼がその悪から立ち返るとき、その悪は彼を倒すことはできない……」

(12節)